「たばこは地元で買いましょう！」「たばこ税は地元の暮らしに大きく役立っています」――これは、たばこ販売業界が長年にわたり、愛煙家の皆さん及び地域社会や地方自治体に訴えてきた、地方たばこ税の財政貢献をアピールする標語です。

たばこを取り巻く環境は日々変化しています。今年と来年の10月には、たばこ税増税が予定され、愛煙家にとっては引き続き、更なる経済的負担が増すものの、何らその見返りはありません。また、地方たばこ税は、自治体にとって徴税コストのかからない安定的な税収として地域に役立っていますが、その一方で、自治体の喫煙規制の強化が全国的に広がりつつあります。

現在、愛煙家の皆さんのみならず、地域社会全体に地方たばこ税の財政貢献が広く深く認知されるよう、令和新時代にふさわしい、心に響く〝地方たばこ税の貢献〟を強く表現、アピールする標語・キャッチコピーを、全協協賛により下記の要領で募集しています。締切（4月30日）が迫っていますので、奮ってご応募ください。

締切迫る‼4月30日‼奮ってご応募を‼
地方たばこ税の財政貢献をアピールする新しい標語

【募集要領】

◆**テーマ**：地方たばこ税の財政貢献を強く訴える標語・キャッチコピー。未発表作品に限ります。

◆**募集対象**：たばこ組合員・組合職員及びたばこ会社関係者

◆**募集期間**：2020年4月30日締め切り

◆**応募方法**：ハガキ、手紙、FAX（1人5点以内）

◆**選考委員会**：全協及びたばこ販売関係有識者

◆**入賞作品**：最優秀賞1点・優秀賞3点・佳作5点（それぞれに相当する粗品を進呈）

◆**入賞作品発表**：全国たばこ新聞2020年6月号（5月25日発行）紙面に掲載

●**応募先・問い合わせ先**

■**住所**：〒105―0004
東京都港区新橋6―2―1
木村ビル801
㈱アーネスト　標語募集係

■**電話**：03（3432）8346
FAX：03（3432）8347

【応募に当たっては、住所、氏名、年齢、所属する組合名、会社名などを、忘れずに、明記してください】

話題

<ニコチン、ゼロ。タール、ゼロ。>インペリアル・タバコ・ジャパンの ベイプ「マイブルー」

紙巻たばこ「ウエスト」で知られるインペリアル・タバコ・ジャパン㈱は、紙巻たばこ・加熱式たばことまったく異なる電子たばこ（ベイプ）「マイブルー」の販売促進キャンペーンを販売店及びお客様に向けて実施中である。

「マイブルー」スターターキット

4月1日からの改正健康増進法の全面施行に伴い、喫煙専用室や喫煙目的施設を除き、屋内は原則禁煙となる。更に屋外においても喫煙所は少なく、お客様の喫煙機会減少が懸念される。このような中、お客様に蒸気のフレーバーでリフレッシュタイムを提供するのが「マイブルー」である。

お客様に「新しい選択」を提供 多彩なフレーバーをラインナップ

「マイブルー」は、「たばこ」ではなく同製品のキャッチフレーズである〈ニコチン、ゼロ。タール、ゼロ。タバコじゃない新しい選択〉の通り、喫煙規制の対象にならず、マナーに配慮をしながら好きなところで制約を受けずに、お好みのフレーバーを楽しむことができる〝優れもの〟といえる。

スターターキット本体は、手軽な手のひらサイズ。約20分で充電が完了し、1回の充電で約300回の吸引が可能だ。また、フレーバーポッド（1箱2本入り）は、手を汚さずワンタッチで交換できるとともに、フレーバーは人気のストロングメンソール、アイスベリー、スースーレモン（4月1日発注開始）など多彩な12銘柄のラインナップで、お気に入りの香りを選択できる。

同社では「お店の売上げアップの商材としてぜひ活用していただきたい。現在、全国のたばこ販売店様を対象に無料サンプルを提供中（下段の広告参照）」と話す。

「ストロングメンソール」

「アイスベリー」

「スースーレモン」（4月1日発注開始）

●昨今、たばこ規制が厳しくなり、「たばこを吸うな！たばこを吸うな！」の大合唱が、あちらこちらで湧き上がっており、たばこ店は売り上げ減少で困っています。初代の祖母が始めたお店、売り上げが減ったとはいえ、長年にわたって我が家の生活と経営を守って来てくれた〝たばこ〟です。祖母に感謝するとともに、「たばこを吸うな！」の大合唱に負けないよう頑張っていきます。
（山形県・阿部洋子さん）

●人は、人と触れ合うことによって元気がもらえると思っています。たばこ販売は、まさに、人との触れ合いができる素晴らしい仕事です。いつまでも元気に、たばこを買い求めてくださるお客様に笑顔を振りまいてまいります。
（愛媛県・吉川かえこさん）

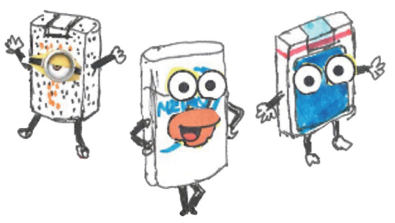
●たばこの規制が益々厳しくなる状況下ですので、自由民主党たばこ議員連盟の先生方には、大いに期待しています。日本のたばこ産業の維持・発展のため、そして、分煙先進国の実現に向けて、より一層頑張っていただきたいと思っています。
（福岡県・瓜生茂子さん）

●昭和60年にたばこ販売の許可をいただき、商売を始めました。その時から毎日、買い求めてくださっていた常連のお客様が、先日、95歳で亡くなられました。農家の方で、時には、小松菜などの野菜を持ってきてくださいました。私共も、コーヒーを提供したりして話に花を咲かせたりしていました。たばこの販売は厳しくなる一方ですが、たばこを愛してくださる方がいる限り、頑張って続けていきます。
（東京都・守屋英夫さん）

●紙巻たばこは勿論ですが、加熱式たばこも、最近は、各メーカーとも種類が多くなり、大変苦労しています。紙巻たばこの場合には、ファミリーということで、それなりに統一が取れているのですが、加熱式たばこの場合は、各社とも統一性があるような、無いような状況で、困っています。
（静岡県・石田智子さん）

●亡くなった父が、昔、「いこい」を吸っていて、確か「今日も元気だ、たばこがうまい」などと言っていたような気がします。「いこい」のポスターを見ると、父を思い出します。良いポスターだし、言葉も良いですね。
（栃木県・小堀祐子さん）

「旅は道連れ…。いい湯だなぁ～」


「たばこは地元で買いましょう」
（新潟県・星　ミユキさん）

広告3段